病　防　第 269 号
令和８年７月 27 日

関係機関長　殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
（　公　印　省　略　）

病害虫発生予察注意報について

令和８年度病害虫発生予察注意報第５号を発表したので送付します。

令和８年度病害虫発生予察注意報第５号

１　作物名　　マンゴー

２　害虫名　　マンゴーハフクレタマバエ

３　発生地域　　八重山地域

４　注意報発令の根拠

石垣市における７月の調査の結果、本種の寄生新梢率は 84.8％（平年：23.6％）、発生ほ場率 100％（平年：50.0％）で、平年に比べ多発生となった（図１、図２）。

５　発生生態および被害

(1)成虫は体長 1.3～1.7㎜で体色は明褐色、脚は細長い。触角は数珠玉を繋いだような形で、体長と同程度かそれ以上の長さがある（図３）。幼虫は体長約 2㎜の白～橙黄色のうじ虫である（図４）。

(2)雌成虫はマンゴーの新葉及び新梢部の軸の柔らかい組織内に産卵する。ふ化した幼虫は葉肉内をせん孔し、生長しながら直径 1.5～3㎜ の円形の虫こぶを形成する。虫こぶはわずかに膨らみ、水浸状～黒褐色の円形の斑点となる（図５）。成熟した幼虫は虫こぶから脱出し、飛び跳ねて葉から落下し、地中で蛹化する。

(3)幼虫脱出後の虫こぶは葉から脱落するため被害痕は孔となり、高密度に加害された葉は落葉が早まる（図６）。また被害痕から炭疽病菌に感染することが多く、落葉がいっそう促進される。

(4)卵～成虫まで約２週間（卵期間２日、幼虫期間５日、蛹期間６日程度）、成虫寿命は１～３日程度とされる。県内では低温期を除きほぼ周年発生が確認されるが、特に新梢が増える７～10 月に発生が多い。

６　防除対策及び注意すべき事項

(1)繁殖スピードが速く、環境条件が整うと急激に増殖することから、新葉をよく観察し、早期発見・防除に努める。また被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。

(2)高湿度条件下で幼虫や蛹の生存率が高まるため、施設内の湿度管理に留意する。

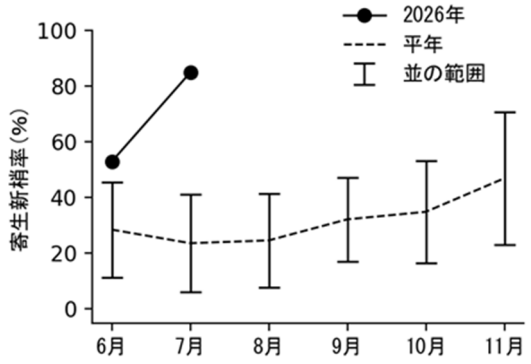

図１　マンゴーハフクレタマバエ
寄生新梢率の推移

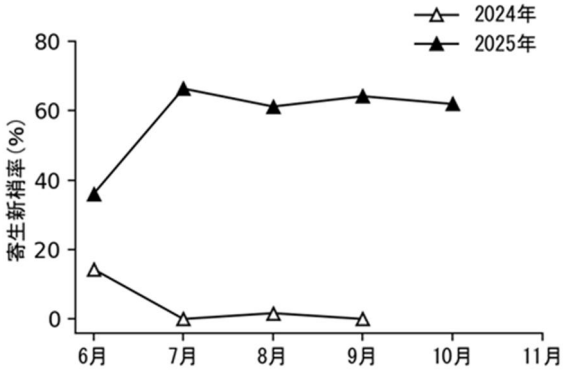

図２　マンゴーハフクレタマバエ
過去２年の寄生新梢率推移

図３　マンゴーハフクレタマバエ（成虫）

図４　マンゴーハフクレタマバエ（幼虫）

図５　新葉に形成された虫こぶ

図６　高密度に加害された新葉

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★
TEL ：（本所）098-886-3880、（宮古駐在）0980-73-2634、（八重山駐在）0980-82-4933
ホームページアドレス：https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html